

## 第3 調査結果のまとめ

### (1)「生涯学習」という言葉について

「生涯学習」という言葉の認知度（問3）について、「言葉も意味も知っている」の割合が最も高く、「言葉は知っているが意味は知らない」と合わせると、「生涯学習」という言葉を知っている割合は9割近くになり、言葉自体は認知されていることが分かります。

また、「生涯学習」という言葉に対するイメージ（問4）として、「幼児期から高齢期まで、生涯を通じて学ぶこと」、「生活を楽しみ、心を豊かにすること」、「趣味や教養を高めること」、「生きがいをつくること」の4つを回答者の半数近くの方がイメージしていることが分かります。生涯学習は義務的な学びではなく、人生を楽しく、豊かにするものであるという認識が強いことがうかがえます。

### (2)「生涯学習」の情報について

生涯学習に関する情報（問5）は、「市の広報紙（学び Eye はしまを含む）」から得られることが主で、情報源とされていることが分かります。「インターネット」の割合も高くはなっていますが、広報紙に比べて低く、紙面をめくれば正しい情報が手に入る広報紙の方が手軽で便利な情報源となっていることがうかがえます。

今後最も欲しい情報（問6）は、「講座、イベントなどの案内」という結果でした。多くの方が講座やイベントの開催に興味・関心を示しており、自己実現のための学びに取り組んでいきたいという意欲を感じます。

### (3)「生涯学習」活動について

過去1年間にどのような生涯学習活動をしたか（問7）という問いに対して、約3割の方が「趣味に関すること」と回答しています。しかし、それと同じ割合の方が「過去1年間生涯学習に関わる活動をしていない」と回答しています。

また、活動を行った理由、これから行うとしたら何を理由にするか（問8）という問いに対しては多くの方が活動を行った・行いたい理由を持っていることが分かりました。

問7・8から、生涯学習に関わる活動を行いたいと思っっている方は多いが、実際は活動できていない方が多くみえることがうかがえます。

活動を行った（これから行いたい）場所や形態（問9）として、「公的機関における講座、教室」の割合が最も高く、次いで「インターネットやパソコンを活用」となっています。生涯学習の情報源（問5）としてインターネットはあまり高い割合ではありませんでしたが、活動の中で活用したり、今後活用したりしたいという意見が多く、これらの形態での講座もニーズがありそうです。

活動に取り組む際、妨げになること（問10）として、「仕事や家事が忙しくて時間がとれない」の割合が最も高くなっています。講座の開催について、仕事や子育てをしている方も参加しやすいように日程を調整するなど、参加しやすくなるような環境づくりが必要です。また、広報紙で情報を得る方が多いため、講座に参加しなくても、個人でできる活動などを紹介することも効果的だと考えます。

## (4)「地域づくり型生涯学習」について

生涯学習活動を通じて身に付けた知識や経験を活かし、地域活動や学校教育活動でのボランティア活動に取り組むなど、社会に貢献していきたいと思うか（問12）は、「貢献していきたい」と「どちらかといえば貢献していきたい」を含めると、半数以上の方がそう思っているという結果になりました。また、「わからない」と回答している方の割合は4分の1程度を占めています。身近な方々のため、地域のために行うボランティアなどの活動は、すべて貢献につながるということを意識付けしていく必要があります。

## (5)地域のつながりについて

地域のつながりの必要性を感じるか（問13）は、「必要である」と「どちらかといえば必要である」を含めると、およそ9割の方が必要だと感じていることが分かります。

また、つながりが必要な理由（問14）は、それぞれの調査において次のようになっています。

- |       |                       |
|-------|-----------------------|
| 郵送調査  | 1 災害時に助け合うため          |
|       | 2 防犯活動を行うため           |
|       | 3 高齢単独世帯の見守り活動を行うため   |
| 窓口調査① | 1 災害時に助け合うため          |
|       | 2 環境や伝統・文化等を維持・継承するため |
|       | 3 高齢単独世帯の見守り活動を行うため   |

- 窓口調査②
- 1 災害時に助け合うため
  - 2 子育てを支援するため
  - 3 防犯活動を行うため

地域のつながりと一言で言っても、たくさんの要素を含んでおり、伝統や文化を維持・継承するためにも、子育てをしていくためにも、つながりや協力は必要なものだと感じている方が多いことが分かります。

## (6)今後の生涯学習の推進のために

今後、市として力を入れるべきこと（問15）として、「生涯学習に関する情報提供」と「生涯学習の講座内容や種類の充実」が挙げられています。多くの方が、開催されている講座に興味を持たれていることがうかがえます。

問5で広報紙（学び Eye はしまを含む）が市民の方々の情報源として非常に有効だと分かりました。広報紙の内容をより充実させていくとともに、インターネットでの情報提供も強化し、バランスよく市民の方々に情報を発信していくことで幅広い年齢層の方の生涯学習の推進に繋がると考えます。